

地方都市における 新しい住環境価値を考える



■活動地域

北海道函館市

■活動期間

2015年4月～継続中

■活動体制

工学院大学 野澤研究室 星研究室／関西大学 岡研究室／芝浦工業大学 桑田研究室／千葉大学 秋田研究室／新潟大学 松井研究室

■活動キーワード

住環境価値／住まい方／地方都市／函館

■2017年度メンバー

M2 島田泰仁 富田俊介／B4 井上恵 都野佳奈

-活動経緯-

2015年度から始まった本プロジェクトは、2016年度から他大学も交えて、5大学6研究室の体制で活動を行っている。

これまでの利便性最優先の住環境の捉え方・考えから脱却し、これからの時代に求められる新しい居住の場・住まい方のあり様、住環境の捉え方を探っていく。また、次世代に向けた都市の全体像、そのための計画ツール、法制度のあり方等を提案することを目的として、研究を進めている。



-対象地の概要-

函館市は、1935年までは道内一人口が多かったが、1980年の345,165人をピークに人口が減少し始め、2015年では265,979人となり、現在は札幌市、旭川市に次いで3番目となっている。

一方で、観光地として人気があり、ブランド総合研究所による地域ブランド調査では、2009年と2014年に1位を獲得している。

-昨年度までの活動-

2015年度は函館市の観光名所や中心市街地を中心に現地調査を行い、調査結果をまとめた。

2016年度からは科研費の助成を受け、総務省の国勢調査データや地理情報システム等を利用し、函館市市街地の基礎的調査と、調査する対象地の選定を行った。また、選定した対象地区の現地調査を11月に行い現地調査や市役所へのヒアリングを行った。3月には、共に研究を進めている各大学の先生・生徒と、合同の研究報告会を工学院大学で行った。

2017年度の活動内容

今年度は、昨年度の活動を通して選定した対象地区の中から、各自が研究テーマを決め、各研究で必要な調査を進めてきた。

9月には学生メンバーの4人で函館市に訪れた。さらに、M2の島田は11月に、富田は1月に、それぞれ追加で現地調査を行った。

-各研究テーマ-

島田泰仁

「地方都市のまちなかにおける住環境の変化と実態に関する研究～函館市を対象として～」

富田俊介

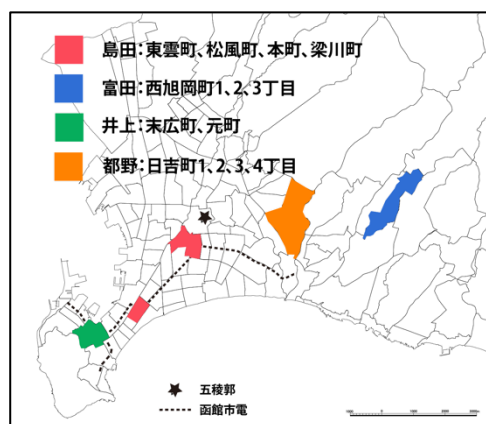
「地方都市の郊外住宅地における戸建住宅とその居住者の動向に関する研究～函館市旭岡団地を対象として～」

井上恵

「函館市西部地区における空家の活用に関する研究」

都野佳奈

「地方都市における非計画的住宅市街地に関する研究～函館市日吉町を対象として～」



-現地調査-

学生のみによる今年度の現地調査では、昨年と同様に、住宅地図や旭岡団地の開発計画に関する資料収集を行った。さらに、中心市街地に住む函館市民を対象としたアンケート調査表の配布や、函館市で事業を行なっている、不動産会社や福祉施設にヒアリング調査を行った。

